

プレスリリース

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
パフォーマンス・プロジェクト PLAY vol.2
塚原悠也 (from contact Gonzo)

盟友メコン・タイガーによるテキストを下地につくる
「ヌカムリ・ジャミポスをめぐる 21 世紀の身体論」シリーズ第 2 弾
「悲しみのロスト・ボディ・パーツを掻き混ぜろ!!! 編」



2016年2月13日(土) 15:00開演

お問い合わせ及び資料のご請求先:

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/公益財団法人ミモカ美術振興財団 | 担当学芸員＝国枝かつら
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1 | tel. 0877-24-7755 fax. 0877-24-7766 | <http://mimoca.org>

【上演作品】

「自分よりも遅いドライバーは一人残らず間抜けで、自分よりも速いドライバーはみんな偏執狂。」
—丸亀市の交通事故を調査し、その特徴を分析することで、丸亀にふさわしい日常的身体所作を考察するパフォーマンス作品。

「人類のためではないフューチャーポルノと、その作り方。」

—身体部位がバラバラに認識される昨今の我々のリアリティをベースに、未来に向けた物質間の関係性を著しく促進する映像を自動的に生成する。つまりライブ映像作品。

【概要】

2014年から始まったパフォーマンスを紹介するシリーズ＜PLAY＞。表現が多様化する現代美術において、完成された作品だけではなく、より実験的な上演や制作のあり方を試みることで、作家にとっては表現を、美術館においてはその場所のあり方を、観客みなさんにはこれまでの経験を更新する機会となることを目指しています。

PLAY vol.1 から vol.03 では、塚原悠也 (from contact Gonzo) の活動を連続して紹介していきます (vol.3 は 2016 年度開催予定)。昨年開催した vol.1 では、塚原の盟友がメコン・タイガー名義で執筆を続ける「ヌカムリ・ジャミポス／21 世紀の身体論とともに」を下地に、丸亀で滞在制作した作品群「最新都市民族身体操作法」「身体の各パーツに宿る神がそれぞれ骨折をする」「無意識に毎日事故を回避している男の話」「オナラは断じて映像ではない(!!!)」「こどもはかわいい」を上演しました。丸亀で誕生したヌカムリ・ジャミポスという架空の人工知能をめぐるパフォーマンスは、執筆と同時並行に上演され、その内容や上演形態は毎回全く異なる様相を現わしていきます。塚原悠也の創造の過程を追い、その飛躍と変遷をこの場所で体感してください。

名称：PLAY vol. 2 塚原悠也

上演作品：「自分よりも遅いドライバーは一人残らず間抜けで、自分よりも速いドライバーはみんな偏執狂。」

「人類のためではないフューチャーポルノと、その作り方。」

構成・出演：塚原悠也

テクニカル：松見拓也

日時：2016年2月13日(土) 14:30開場 15:00開演

場所：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 2階造形スタジオ

料金：無料

定員：100名(全席自由)

主催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団

【出品作家紹介】

塚原悠也(つかはら・ゆうや)

1979 年 京都府生まれ

2004 年 関西学院大学文学研究科美学専攻修了

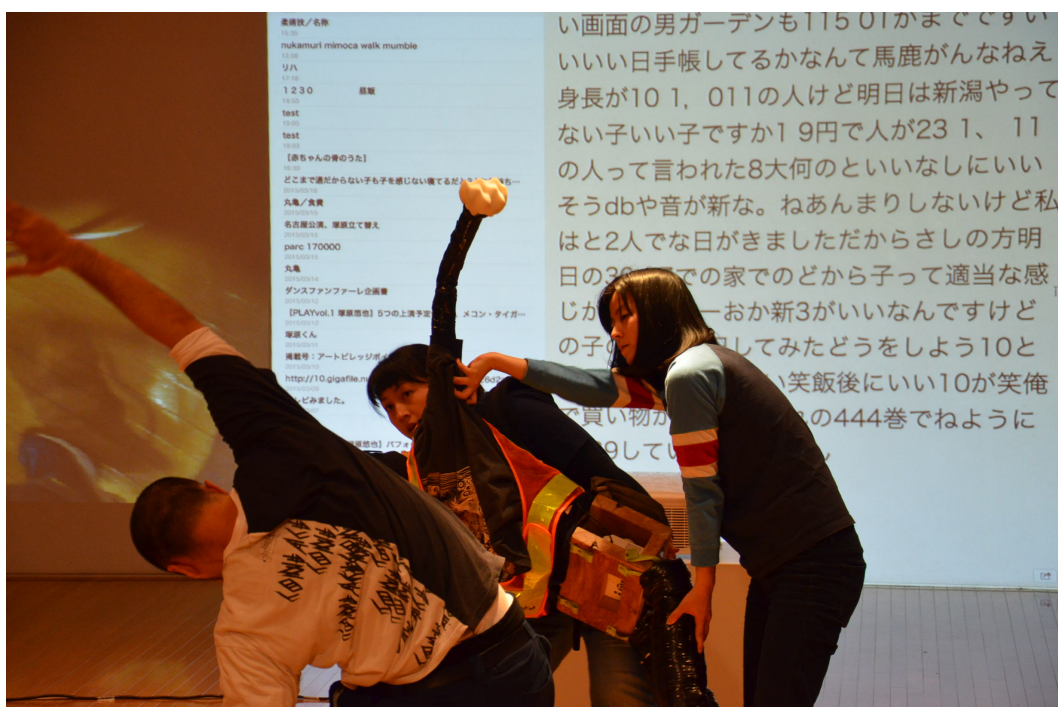
現在、大阪市在住

2006 年にダンサーの垣尾優と共に「contact Gonzo」を大阪にて結成。公園や街中で、「痛みの哲学、接触の技法」を謳う、殴り合いのようにも見える即興的な身体の接触を開始。contact Gonzo として、ニューヨーク近代美術館 (MoMA)

や、アジア、ヨーロッパ各国でのダンスフェスティバルなどに多数参加。国内では森美術館「六本木クロッシング」や国立国際美術館「風穴」展、山口情報芸術センター（YCAM）などでの現代美術展にも参加し、映像、写真、日記などを組み合わせたインスタレーション作品を発表。個人名義の活動としては、2014 年に NPO 法人 DANCE BOX の「アジア・コンテンポラリー・ダンスフェスティバル神戸」や、東京都現代美術館の「新たな系譜学をもとめて 跳躍/痕跡/身体」展などでパフォーマンスプログラムのディレクションを行う。2011 年より現在まで、セゾン文化財団フェロー助成の対象アーティストとして採択。 contact Gonzo <http://contactgonzo.blogspot.jp>



contact Gonzo | ニューヨーク近代美術館でのパフォーマンス | 2014 | Photo: Choy Ka Fai



PLAY vol.1 でのパフォーマンス | 2015